

夏を彩る涼しげコーデ！

第2回 夏きもの・ゆかたまつりが開催

7月1日から3日の3日間、壽丸屋敷で「第2回夏きもの・ゆかたまつり」(白石まちづくり株式会社主催)が開催されました。まつりでは、屋敷内に、夏着物や浴衣の展示を初め、こぎん刺しやつまみ細工のアクセサリーの展示もあり、着物ファンの目を楽しませていました。また、すまいる広場では着物やハギレ市も開催。着物で参加した女性は「着物を着て参加できるお祭りが白石にあってうれしいです」と話していました。期間中は、猛暑やにわか雨など目まぐるしい天気でしたが、彩り涼しげな着物が夏の暑さをいっとき忘れさせてくれました。



▲短冊に思いの願いと書いて笹竹に飾り付けをしました

夢をあきらめるな！ 可能性は無限大

白川中学校で志教育講演会

6月17日、白川中学校で志教育講演会が開催されました。この日は、劇団ニホンジンプロジェクトのエムサイズ佐久間さんとホームラン川北さんが「自分の夢に向かって」というテーマで講演。佐久間さんは「皆さんの可能性は無限大。社会にはたくさんの職業があって、その中には必ず、皆さんの『やりたいこと』があります。自分の夢の選択肢を減らさず、可能性を信じてさまざまなことにチャレンジしてください」とエール。平間愛理生徒会長は「『無理だから』と夢をあきらめてはいけないことを教えてもらいました」とお礼を述べていました。



▲生徒の質問に答えるエムサイズ佐久間さん(写真奥右から2番目)

ホタルの光で幻想的な夏の夜を過ごす

福岡・白川でホタルまつり

6月18日、白石薬師堂ホタルの里を守る会(村上隆会長)と白石温泉薬師の湯共催の「第14回ホタルまつり」が白石温泉薬師の湯で開催されました。薬師の湯で行われた開会式には市内外から約200人が来場。大鷹沢こども太鼓や弥治郎ダンサーズ、よさこい走乱白石城の皆さんによる演奏・演舞などが披露されました。また、この日は仙台を中心に活動している女性ボーカルユニット、ゲシュタルトがアニメソングを披露。会場を盛り上げていました。来場者は、同地区のサロン・サンサンや福岡小学校の皆さんなどが製作した花燈路約170個で幻想的に照らされた道に沿って、通称「おがる石」まで歩いて移動。「あそこにいたよ！ ほら！」「きれ～い！」など、歓声をあげながら数十匹のゲンジボタルを観賞していました。

また、6月25日、小奥地区の石神社周辺では白川小奥地域環境資源保全隊主催(佐藤勇二代表)の「第5回石神社ホタル鑑賞のつどい」が開催されました。この行事に地区内外から約40人が参加。アトラクションでは、参加した子どもたちと手話を使って歌を歌ったり、クイズや紙芝居でホタルについて楽しく学んだりしました。その後、大森川の土手沿いまで歩いて移動し、舞い飛ぶたくさんのゲンジボタルを鑑賞。子どもたちは、目の前を

飛び回るホタルを捕まえようと大興奮！ あちらこちらに幻想的な光が瞬く夜のひとときを過ごしました。



1_「ホタルまつり」のオープニングセレモニーで弥治郎ダンサーズがオリジナルダンスを披露 2・3_石神社ホタル鑑賞のつどいでは手話や紙芝居、クイズなどいろんな遊びがいっぱいでした

伝統芸能をより身近に

第24回白石市伝統芸能フェスティバル

7月3日、「第24回白石市伝統芸能フェスティバル」が古典芸能伝承の館碧水園で行われました。この催しは、市民の皆さんが伝統芸能に触れ親しむことでその魅力をより身近に感じてもらおうと、毎年開催しています。この日は、碧水園で活動する、市内の伝統芸能愛好家たち9団体70人が出演。箏曲、日本舞踊、詩吟、神楽、長唄、仕舞などの、練習の成果を披露していました。このイベントを鑑賞した武田政春教育長は「今、本市にたくさんの伝統芸能が継承されてきたのは皆さんのおかげ。次世代につなげてください」とエールを送っていました。



▲琴の演奏をする「生田箏曲朋美会」の皆さん

白石の伝統食を次の世代へ

武家屋敷で「笹巻き」の会

6月18日、白石に伝わる伝統食笹巻きの試食や巻き方の体験ができる「笹巻きの会」が武家屋敷で行われました。この催しは、白石市文化体育振興財団が笹巻きを次の世代に伝えようと、ヘルスマイト白石の協力を得て実施したもの。笹巻きは、子どもたちの健やかな成長を願い端午の節句のころに作られてきました。当日は、もち米を笹で巻き、いぐさで結ぶ作業をしたり、ゆであげ、冷やされた笹巻きにきなこを付けて食べたりしました。参加者は「笹を巻くのが難しかったけど楽しかったです」「もちもちしてておいしかった」と話していました。



▲ヘルスマイトのメンバーから笹の巻き方を教わる参加者

社会のきずなが非行の防波堤に

青少年健全育成・非行防止推進大会が開催

7月2日、白石市青少年健全育成・非行防止推進大会(青少年のための白石市民会議主催)が中央公民館で開催されました。これは、7月が「青少年の非行・被害防止全国強調月間」であることにあわせ、市民みんなで問題意識を高めようと催されたもの。会場には約280人の市民が参加。大会では、仙台少年鑑別所寺村堅志所長の「最近の少年非行の動向と立ち直り支援」と題した講演があり「少年非行は減少傾向にあるが、楽観できません。非行からの立ち直りには、社会の役に立つ良い体験をさせてあげることが大切です」と話していました。



▲寺村所長の講演に耳を傾ける参加者

個性を尊重することが大切！

福岡小学校で人権教室

7月13日、人権擁護委員による「人権教室」が福岡小学校で開催され、同校6年生39人が参加しました。この日は、人権啓発アニメ「勇気のお守り」を鑑賞後、参加者全員で人権ソング「世界をしあわせに」を合唱しました。参加した児童は「いじめている人を見つけたら勇気を出して注意します」と感想を話してくれました。人権擁護委員の伊藤一徳さんは「苦手なことや人と違うことがあってもいいんです。この教室を受け、少しでも児童たちが『自分らしさ』について考えてくれればうれしいです」と、児童たちに伝えたい想いを話してくれました。



▲人権擁護委員の伊藤さんの話を真剣に聞く児童たち